

2015 JUA/EAU Academic Exchange Programme 参加報告

武内 在 雄 (九州大)

2015年のJUA/EAU Academic Exchange Programmeに東北大学の三塚浩二先生とともに参加させていただきました。このEAUとのExchange Programは今回が初めての試みであったようで、その内容としてはマドリードで開催されたthe 30th EAU annual meetingに参加することは勿論、その一週間前よりマドリード近郊の2つの病院を見学するというものでした。

一つ目の病院見学はHospital Universitario Fundación Alcorcónからスタート。Prof. C. Llorente Abarcaのレクチャーの元、様々な手術を見学しましたが、特に感嘆したのは口腔粘膜を用いた尿道形成術、前立腺癌根治照射後の腹腔鏡下膀胱全摘術でした。私自身はあまり経験のないものばかりでしたが、どの手術も洗練されておりスペインの泌尿器科医の卓越した技術を目の当たりにすることができました。2つ目の病院はHospital Universitario Infanta Sofiaに移動。偶然にも手術見学は尿道形成が中心でした。Prof. L. Martínez-Piñeroは尿道形成に大変精通している方で詳しくすぎるレクチャーを受けることもできました。

手術見学以外では、セミナーなどに参加させてもらったり、ラボの見学をさせてもらったりして過ごしました。Prof. C. Llorente Abarcaのラボでは、前立腺癌組織のサンプルからの遺伝子解析などを他のグループと共同して研究しているようで、そのサンプル数に驚愕しました。Prof. L. Martínez-Piñeroのラボは膀胱癌に対するBCG注入療法について以前から大変多くの優秀な業績を残されており、私自身も学位論文のテーマでもありましたBCGには少なからず思い入れがありましたので、とても興味深く話を聞くことが出来ました。

夜はどうだったかと言いますと、毎日宴会でした(笑) Prof. C. Llorente Abarcaに連れて行って頂いた大衆的なバル、郵便局の屋上にある超豪華レストラン、Prof. L. Martínez-Piñeroに連れて行って頂いた洋食レストラン、いずれも素晴らしかったです。スペインのレストランはそのメインが魚料理ということもあり、日本人の我々にとっても、非常に馴染みのある、また懐かしい味でした。

週末は、完全にオフでしたので、せっかくのスペインを楽しみました。サッカーチーム、アトレティコ・マドリードのホームスタジアムであるビセンテ・カルデロンに出向きフェルナンド・トーレスのゴールを目にすることが出来ました。マドリードと言えばレアル・マドリードを思い浮かべる先生方が多いとは思いますが、今回の期間中にホームスタジアムであるサンチアゴ・ベルナベ



Prof. C. Llorente Abarcaとともに
右から筆者、Prof. C. Llorente Abarca、同じく Program
に参加した東北大学三塚浩二先生



Prof. L. Martínez-Piñeroとともに
前列中央が Prof. L. Martínez-Piñero

ウにてレアル・マドリードの試合が無かった為、直接クリスティアーノ・ロナウドを見ることはできませんでした。落胆している我々を思っか、サンチアゴ・ベルナベウ見学ツアーなるものを Prof. C. Llorente Abarcaに企画して頂きました。歴代のスーパースターのそれこそスーパープレイが一本の映画としてまとめてあり、非常に感動しました。またEAU学会期間中にFCバルセロナとレアル・マドリードの試合、所謂クラシコが開催されていました。先述しましたが、残念ながらその試合はバルセロナの本拠地であるカンプ・ノウトで行われていましたので、ホテルのバーで多くのファンと共にスクリーンの前で応援するだけでしたが、その熱狂を肌で感じる事が出来、これが本場のサッカーファンなのかと

変に感心しました。自分の滞在したホテルの周辺には、多くの美術館や歴史的建造物があり、特にプラド美術館には、その規模の大きさと収蔵品のレベルの高さに驚きました。

最後に、このような機会を与えて頂きましたJUA, EAUの関係者の方々、私たちが快く迎えてくださったProf. C. Llorente Abarca, Prof. L. Martínez-Piñeroおよびそのスタッフの方々に心から感謝致します。
